

令和6年度

結婚おうえん TOKYO ミーティング 第1回

議事録

令和6年6月10日（月曜日）

対面開催（第一本庁舎7階大会議室・YouTube 配信あり）

17時15分開会

1 開 会

○司会

ただいまより、結婚おうえん TOKYO ミーティングの第1回を開催いたします。皆様、本日はお忙しい中、ご出席いただき誠にありがとうございます。本日の進行を務めさせていただきます。東京都生活文化スポーツ局の渡邊と申します。どうぞよろしく願いいたします。はじめに、本日の出席者をご紹介します。

一般社団法人結婚・婚活応援プロジェクト代表理事、山本竜馬様です。

一般社団法人結婚・婚活応援プロジェクト代表理事、飯塚勇太様です。

一般社団法人日本結婚相手紹介サービス協議会理事長、升村要様です。

一般社団法人日本結婚相手紹介サービス協議会副理事長、吉末育宏様です。

公益社団法人日本ブライダル文化振興協会会長、清原當博様です。

公益社団法人日本ブライダル文化振興協会常務理事、鈴木直樹様です。

一般社団法人未来ウェディング JAPAN 代表理事・会長、野尻佳孝様です。

一般社団法人未来ウェディング JAPAN 監事、衣笠歩様です。

小池百合子東京都知事です。

それでは、小池知事からご挨拶させていただきます。

○小池知事

皆様こんにちは。本日は第1回の結婚おうえん TOKYO ミーティングということで、ご多忙のところお集まりをいただきました。誠にありがとうございます。

これだけ結婚、お見合いに関して、様々な取り組みをしておられる方々がお揃いでお集まりいただくということ、これは初めてのことかと思えます。マッチングアプリ、結婚相談所、ブライダル関連の各分野の皆様方でございます。いろいろお話、また考え方、こうすればいい、いろんなご提案なども伺えればというふうに思っております。

先日から話題になっておりますが、少子化がですね、さらに進んでいるということでございますけれども、何のことはない、1989年の1.57ショック以来、ずっとこれが続いてきております。これまで私も様々な立場でこの課題についてですね、じゃあどうすればいいのか、そしてまた都として何ができるのか考えてまた実行もしてまいりました。

日本はですね、ずっと分析をしていて、何もやっていないことはないんですけども、結局、この特に出産や結婚に関することって、お一人お一人お考えがですね、あるんですね。それも幅広くて。そしていや、未婚が問題なんだ。いや、晩婚化が問題なんだ。いやいや、働く女性たちが、なかなかこのキャリアと結婚のタイミングが合わないとか、そもそも出会いが少ないとか、ずっとそのことを話している間に、ここまで来ていると

いう状況ではないかと客観的に思います。

そういうなかです、合計特殊出生率が全国で 1.20、東京ではいよいよ 1 を切つて 0.99 ということが報道されているわけですが、都は希望する誰もが結婚して、そして子供を産み育てられるように、出会いから結婚、出産、子育てまで、シームレスな支援を行っているところがございます。それは人生っていろんなステージがあって、そのステージごとにいろんな不安はありますけれども、やはり将来への希望を持てるような社会にしていくということ、これが何よりも重要だというふうに考えるからこそ、シームレスな支援ということにこだわっております。で、その入口ですけれども、やはり出会い・結婚であります。そこをしっかりと支援をしていくということが必要だと思っております。

ぜひ皆様方と一緒に知恵を出し合いながら、素敵な出会いを増やしていきたいと考えております。キックオフミーティングでございますが、ぜひこれを皮切りに効果的に取り組みを進めていきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

2 議 事

○司会

ありがとうございました。それでは、各団体の取り組みのご紹介をお願いいたします。一般社団法人結婚・婚活応援プロジェクト様、お願いいたします。

○山本代表理事

一般社団法人結婚・婚活応援プロジェクト、MSPJ の山本と申します。本日はよろしくをお願いいたします。まず最初にですね、小池知事、また関係者の皆様におかれましては、結婚おうえん TOKYO ミーティングをこのような形でご開催いただきまして、ここより御礼申し上げます。

このようにですね、恋愛・結婚に関連した事業者が一堂に会し、未婚化、晩婚化という難題に対して力を合わせ取り組むことは、日本の未来に向けても極めて重要なことであると思っております。当方 MSPJ といたしましても、特に若い世代の恋愛・結婚を応援する立場としてしっかり貢献できるように尽力してまいります。

MSPJ は現在、マッチングアプリの運営事業者を中心に 12 社が参画しており、代表理事はペアーズ・タップル、理事はウィズ・Omiai という事業者になっております。

MSPJ はですね。マッチングアプリを安心安全にご利用いただくために、さまざまな取り組みをしております。いくつかの取り組みをご紹介します。

一つ目の取り組みはですね。IMS 認証という第三者認証の認知拡大取得の促進です。IMS 認証とは利用者が安心して利用できるように、サービスの質や信頼について結婚相手紹介サービス業認証機構が客観的に評価をして認証を付与する制度であり、従来から

の店舗型結婚相手紹介サービス向けに加えて、2020年にインターネット型の事業者も当IMSの認証の対象となり、MSPJでは代表理事企業・理事企業を含む7社がIMS認証を取得しております。またMSPJは、このIMS認証というものの認知の拡大に努めるとともに、さらに多くの事業者がIMS認証を取得するように促進しております。

2つ目にですね、自主基準ガイドラインの策定運用です。自主基準であります、MSPJ七つの約束の制定運用に加え、昨年9月からマッチングアプリのテレビCMラジオCMの放映が可能となったことを受けて、テレビCMおよびラジオCMの自主広告表現ガイドラインを策定し、CM放送を通じたマッチングアプリの適切な認知拡大に取り組んでおります。

3つ目として、ロマンス詐欺等の不正会員対策の強化を、業界横断で進めるための安心・安全ナレッジ共有ワーキンググループを立ち上げて四半期ごとをめぐりに会合を開催しております。

最後に4つ目でございますけれども、関係行政機関との意見交換等の実施です。いわゆる出会い系サイトとの区別の明確化、独身証明書のデジタル化などのテーマにおいて、積極的な提言を行っております。このような取り組みを通じまして、一人でも多くの方がマッチングアプリをご利用いただくことで、恋愛結婚の希望がかなう社会の実現に向けて、少しでも貢献できればと思っております。私からは以上です。

○司会

ありがとうございました。次に、一般社団法人日本結婚相手紹介サービス協議会様、お願いいたします。

○升村理事長

日本結婚相手紹介サービス協議会、JMICと申しますけれども、国内の主要な結婚相談事業者の業界団体であります。このような形になっております。主な会社17社が加盟しております。

出合いのきっかけ別の結婚なんですけれども、これ、ご覧になっているようにですね、なかなかこの婚姻件数というのは増えない、むしろ減っておりますけれども、コロナ禍を経てですね、減少のスピードが加速しつつあります。婚姻件数の減少ですね、これが、コロナ禍を経て、減少に向かっております。

結婚相談所利用者ですけれども、2022年まで順調に増えております。で増加増加で来ましたんですけども、これ2023年は加盟会社脱退による減少なんですね。これ、減っているように見えてそうでもないということなんですけれども、順調に数は増えております、成婚数ですこれは。

結婚相談所の特徴としましてはですね、信頼性と人的サポートですね。やっぱりアプリとの比較になりますけれども、まず信頼性に関する特徴ですね、これはですね、必ず

証明書類を提出いただいて初めて照会が開始されるという、ですから独身証明書・職業の証明書など各種の証明書が必要になります。これで信頼性を確保しております。それから人的サポートですね。人がよく言いますね、お世話をすることなんですけども、いつもカウンセラーアドバイザーが横にいるという、伴走機能を持つということで、人がお世話をする、サポートするという、そういう機能がありますってことをお伝えさせていただいております。以上でございます。

○司会

ありがとうございました。次に、公益社団法人日本ブライダル文化振興協会様、お願いいたします。

○清原会長

公益社団法人日本ブライダル文化振興協会の会長をしております。清原でございます。私どもの団体の説明をいたします。私どもは1995年に設立されたブライダル産業振興と消費者生活文化向上を目的とした団体であります。補足当時はブライダル業界振興を目的とした団体として活動を開始しましたが、2012年に公益社団法人となりまして、ブライダルを通じた生活文化向上も目的に加えて活動しております。会員数は全国に330社、ブライダル事業者のみならず、大学、短大、専門学校といったブライダル人材を輩出する教育機関も会員としてお力添えいただいております。

最近の主な活動を四つ挙げさせていただきます。この中で結婚式を諦めかけた層に、あらためて結婚式実施を検討していただくキャンペーンを冠婚葬祭互助協会様、そして日本ホテル協会様と共同で実施をいたしました。消費者と事業者の信頼性を高め、安心安全な結婚式を提供するために、業界標準としてモデル約款の見直しを行いました。業界全体の貢献につながる活動であったと考えております。それから毎年4000名強今日受験数があります、国家検定、ブライダルコーディネーター技能検定の認定機関でもありまして、人材育成も大きな活動の柱となっております。小池都知事が2013年に立ち上げられまして、初代会長を務めていただきました、婚活ブライダル振興議員連盟や全国で活動する地域ブライダル協議会とも今でも連携を取りながら、様々な角度から結婚、結婚式、ひいては少子化対策を考えて活動しております。以上でございます。

○司会

ありがとうございました。次に、一般社団法人未来ウェディング JAPAN 様、お願いいたします。

○野尻代表理事・会長

未来ウェディング JAPAN 代表理事・会長を務めます。野尻です。よろしくお願

します。我々の団体の未来ウエディング JAPAN はですね、コロナをきっかけに業界の健全な発展と 1 組でも多くの結婚式を増やすことを目的に、2022 年 9 月に設立されました。現在は会員数 218 法人でございます。日本全国の結婚式数およそ約 5 割をカバーしている団体でございます。

結婚や結婚式数の数を増やすためにですね、具体的な活動は大きく二つございます。一つは、結婚への憧れを醸成するための啓発活動です。テレビやインターネットを含め、いろいろなプラットフォームメディアありますが、現在恋愛ドキュメンタリー番組等で若い世代から大変絶大な人気を集めているアベマ、サイバーエージェント様のアベマ様とタイアップをしまして、Z 世代の方々に結婚に憧れを持っていただけるような番組を企画しております。もう一つは、結婚を増やすためのエビデンス作成と提言活動です。昨年、経済産業省から受託して未婚者たちの結婚式参列後の、結婚意欲向上について調査いたしました。我々会員企業のユーザー様から得たりリアルな情報、それらをエビデンスに変えていきます。そしてそのエビデンスを結婚を増やすための政策提言につなげていきたいというふうに考えております。これらの取り組みを通じて、婚姻数、結婚式の増加を目指しているアソシエーションでございます。以上です。

○司会

ありがとうございました。次に、社会全体の婚活・結婚の気運を高めるための取り組みの検討に移ります。この後は事務局に進行を移します。

○山崎部長

それでは、これから進行を務めさせていただきます、東京都生活文化スポーツ局都民活躍支援担当部長の山崎と申します。よろしく願いいたします。それではまず都の事業につきましてご説明させていただきます。資料をご覧くださいまして、都ではですね、望む人が出会いから結婚、妊娠、出産、子育てしやすい社会を目指しておりまして、切れ目ない支援を行っているところでございます。資料の左側ですね結婚支援事業ですけれども、都の結婚支援事業はこの位置づけというふうになってございます。

こちらはですね、令和三年に都が実施いたしました調査でございます。未婚者のうちいずれ結婚するつもりと回答された方が 67%で、そのうち理想的な相手がいれば一年以内に結婚しても良いという方が 67%おります。その中で、特に婚活はしてない方というのが 69.3%ですね、約 7 割います。活動してない理由といたしましては、騙されるんじゃないかとか、あとは将来に対する不安というような、不安がまず大きいというところがございます。あとは出会う機会とか活動の仕方がわからないといったような声がございました。このように、結婚希望しながらも活動に躊躇している方を後押しするということが、非常に重要だというふうに考えておりまして、本ミーティングにおきましても、実効性のある策を打ち出し、社会全体の結婚気運の情勢につなげていきたいというふうに考えてございます。

東京都といたしましても、結婚を希望しながらも活動に躊躇してる方を後押しするため、様々な角度から事業を実施しております。AI マッチングシステムですけれども、独身証明書、収入証明書、身分証明書の提出、それから面談を必須といたしまして、安心して使えるマッチングシステムとしての提供ですね。もう一つ、それから交流イベント、左下ですけれども、独身証明書の提出を条件といたしまして、いわゆる婚活イベントですけれども、こちらでも初めての方が安心して参加できるような、それからその後の活動のきっかけを掴んでもらうような取り組みとして、取り組んでございます。それからまた右側ですね、結婚おうえんキャンペーンといたしまして、婚活に役立つワークショップですとかトークイベント、それから皆様方のエピソードを募集して漫画にいたしまして、結婚に関し共感でき、自分事として捉えてもらうようなことを目的とした東京ふたり Memories など、結婚をポジティブに捉えてもらう取り組みも実施してございます。これらを総合的に取り組んでいくことで、一歩を踏み出す人を応援して参ります。東京都の取り組みとしては以上でございます。

続きまして、各団体様からですね、都の事業の考え方、今回のミーティングの受け止めとかですね、あとは社会全体の婚活・結婚の気運を高めるにあたっての、各団体様の考える課題と、それから意見について伺いたいと思います。それではまず最初に一般社団法人結婚・婚活応援プロジェクト様、お願いをいたします。

○飯塚代表理事

MSPJ の飯塚と申します。よろしくお願ひいたします。まず冒頭に山本代表理事からお話がありました通り、著しい少子化、人口減少という国難に対して、恋愛・結婚に関わる事業者と東京都が一丸になって行動していくことは、もはや社会的な責務であると感じております。東京都様におかれましてはこのような機会を作っていただきまして、本当にありがとうございます。特に若い世代の恋愛・結婚においては、マッチングアプリによる出会いが最も多くなっており、安心安全なマッチングアプリの選び方を啓発していくことこそが今まさに求められている取り組みなのではないでしょうか。

恋愛・結婚の希望がかなう社会の実現に向けてと題しておりますが、私たちが課題と認識していることに、いわゆるマッチングアプリによるトラブルがあります。これを未然に防ぐためには、安心安全なマッチングアプリの印である IMS 認証というものを知っていただき、アプリ選択の指標にさせていただくことが必要なのではないかと考えております。そこでまずはぜひ、都と MSPJ が共同し、IMS 認証の認知理解の促進に取り込むことをご提案させていただきます。IMS 認証および安心安全なマッチングアプリの選び方について、屋外広告やポスターの提出、リーフレットの配布、ネット広告の配信など、マッチングアプリの利用者だけではなく、その家族や友達、自治体職員の皆様などに届くように伝わる情報発信を都と共同で取り組むことができると考えております。

2 つ目に、私たち MSPJ としても参画企業への IMS 認証の取得促進に尽力してまいります。

3つ目ですが、現代において結婚を希望する方々は、そのほとんどが恋愛を経て結婚というプロセスを望んでいらっしゃいます。そこで、いきなり結婚相手を探す支援だけではなく、恋愛がしやすい環境の整備について、都と MSPJ が共同して取り組んでいくことをご提案させていただきます。例えば、都内の観光スポットや商店街等と連携した安全安心なデートスポットを紹介するウェブサイトの構築や、カップル向けの商品、サービスを提供する恋愛応援企業の登録制度創出などが考えられます。

ぜひ今後分科会で具体的な検討を進められればと思いますので、よろしく願いいたします。MSPJ からの意見は以上となります。ありがとうございました。

○山崎部長

ありがとうございました。続きまして、一般社団法人日本結婚相手紹介サービス協議会様、お願いいたします。

○升村理事長

日本結婚相手紹介サービス協議会、JMJC でございます。まずですね、先ほど冒頭のご挨拶、小池知事からですね、出会いから始まるということをおっしゃってくださって、少子化対策のスタートラインは結婚前に設定すべきであることは皆様十分ご承知だと思います。この度の東京都さんからのご提案、官民連携による未婚化解消への取り組みには、全面的に賛同いたします。団体を上げて協力体制を築いて参る所存でございますので、一つよろしく願いいたします。

私ども結婚相談業ですけれども、課題もあります。結婚相談所というのは、やっぱり人が動くビジネスですので、コストがかかります。やっぱり人的サービスのコストですから、顧客獲得のコストもありますので、費用がアプリと比べますと高額になりますので、婚活希望者の利用が限定的となっているところ、これも課題でございます。

ですから、例えば官民連携による PR 情報発信などで民間事業者の信頼性向上とイメージアップによる利用促進が重要と考えます。例えば利用者の経済的負担の軽減として、例えば行政が一部負担するとかですね、給付するとかっていうことも、そういう支援策も考えられます。これも重要だと思いますけれども、よろしく願いいたします。

それから、紙の書類ですね。あらゆる証明書をいただくと先ほど申し上げたんですけれども、紙なんです、今。オンラインでの契約締結ができない、それから独身証明書も紙によるものしか今取り寄せができないというところですね、こういうところで、利便性とそれから経営面での効率化、コスト削減の妨げとなっているところがありますので、このあたり非常に重要となってくると思います。

それから最後ですけれども、この人が動くというところで、スタッフのですね、コミュニケーションスキル、この向上が常に求められます。ですから、利用者がモチベーションを維持するためには、しっかりとサポートが必要ですので、そのスキルがス

トップに求められます。ですから、これ中小、個人事業者が非常に多いものですから、そのためにサポートスキル向上の支援というもの、これも官民連携でお願いできればと思いますので、よろしく願いいたします。以上でございます。

○山崎部長

ありがとうございました。続きまして、公益社団法人日本ブライダル文化振興協会様、お願いいたします。

○鈴木常務理事

BIA の鈴木でございます。どうぞよろしく願いいたします。まず民間とですね、自治体が力を合わせるこのような機会を作っていただきまして、誠に感謝しております。今までにない取り組みを生み出せる可能性を感じておりますので、個人的にはすごくワクワクしている取り組みでございます。

BIA からのご提案としましてはですね、婚姻組数増に向けた取り組みを検討するにあたり、やっぱり結婚したい人を増やす気持ちが高めるというアプローチと、あと結婚できる環境を整えるというアプローチが大きく二つあるかなというふうに考えております。その中で、私どもはですね、ブライダル業界ということもありますので結婚に対しての憧れをいかに増やしていけるのかというところが、大きなキーワードになるかなというふうに思っています。その中でキーワードは当然、若年層に対しての魅力訴求も当然なんですけれども、親世代に対しての意識醸成みたいなところもプラスアルファで必要なんじゃないかなというふうに思っております。

結婚したい気持ちや考えは当然若年層から人生、生き方を設計してですね、やっぱり結婚したいというようなキャリアプランニングのところから派生したりはすると思うんですけども、今やはりかなりですね、他の幸せの、夫婦とか家族に触れる機会が著しく減っているというふうに考えておりまして、その部分の低下が大きいとか、減ってることに對して何かしらアプローチできないかというのが、主な取り組みの軸になるかなというふうに思っております。ブライダル業界、私どもとしてはですね、箱を持っていたりですとか、そういうリソースもありますので、**接点を増やすことで、結婚したい、結婚式したいを増やすというアプローチを、強めていきたいというふうに考えています。**具体的には学生さんですとか、社会人一年目の層に対しての、そういう家族ですとか、結婚、結婚式に触れる機会を増やして、改めて考えていただくというアプローチを増やしていきたいということですし、あと一般の方にも目に留まる形でのイベント開催というのを実現していきたいというふうに考えております。その中でご協力いただけるですね、当然企業群ですとか、学校群みたいなところについては、官民連携で進めさせていただくとですね、かなりスピード感も早まるんじゃないかなというふうに考えております。BIA からは以上になります。

○山崎部長

ありがとうございました。続きまして、一般社団法人未来ウェディング JAPAN 様、お願いいたします。

○衣笠監事

お時間いただきました。ありがとうございます。未来ウェディング JAPAN の衣笠と申します。私どもはですね、書かせていただいている通り、結婚意欲喚起、結婚希望者の行動の喚起っていうのが重要だと捉えております。冒頭に代表理事の野尻からもありましたけれども、一つ目が、その中でも啓発活動ということで、結婚していくこと、パートナーの方たちと生きていきたいと思えること自体をまずは思っただく、憧れを醸成していくことがすごく重要だと思っておりますので、啓発活動を、積極的に頑張りたいなと思っております。その一つが、例えば次の世代の方により届くようにということで、サブスクメディア等々を使いながら、リアリティショーとかっていうのも活用しながらですね、結婚だったり、家族っていうところに憧れを持っていただく、そういうことに取り組んでいきたいなと思っております。

二つ目が、やはりエビデンスというものを使って、政策提言をしていくことです。今日一つご紹介したいのが、結婚式に出られる方はもちろん、ゲストの方がやはり未婚の方も多く来られます。その方たちが結婚式に出ることで、結婚ですとか、結婚式、恋愛、出産というライフイベントに、非常にポジティブに思われること、そこから始まるライフイベントのところにプラスに寄与するってことも分かってきました。こちら非常に興味深く面白いデータだったんですけども、そういった意味では結婚式の数を増やすとかですね、結婚式に参列される方の数を増やすっていうこと自体も、非常に啓発として有効ではないかみたいなの、そういうエビデンスを国ですとか皆様に、政策としてご提言していきたいなと思っております。

いずれにせよですね、未婚化対策というのは、非常に根気強くやっていくことかなと思っておりますので、東京都の皆様のように、官民で一緒にやっていけることを嬉しく思っております。今後ともよろしく申し上げます。

○山崎部長

ありがとうございました。様々ですね、ご意見と課題等をいただきまして、今後ですね、本日ご提案いただいた、もしくは課題としてお話しいただいたものを分科会という形でですね、さらに深掘りさせていただきながら、より具体的な策を検討していければというふうに考えておりますので、皆様方引き続きよろしくようお願いいたします。議事につきましては、本日これで以上となります。最後にですね、小池都知事から本日のまとめにつきまして一言お願いしたいと思っております。

○小池知事

皆さま、ありがとうございました。それぞれの皆様方の現場から分析されたお話、そしてまた、こうあるべきというご提案をいただきました。とてもリアルなお話が多かったと思います。できること、都としてできることをさらに深めていきたいと思っております。

結婚に躊躇する方々が一步そこを踏み出すというその気運の醸成ということが必要なんだと思います。昔はですね、テレビ番組でもフィーリングカップル5対5とかですね、すごく具体的に言うと、今もやってる新婚さんいらっしやいとか、それからいろんなドラマも、とてもそのカップルや結婚に対しての気運醸成が、別に何かこう醸し出す雰囲気っていうのがあったんだろうというふうに思うんですよね。それから結婚式で歌われる歌などもですね、私が古いと言われるかもしれませんが、てんとう虫のサンバとか、大体披露宴でね歌われる歌って、あと木村カエラさんの Butterfly とかね、定番であるじゃないですか。そして何よりも吉田拓郎さんのね、結婚しようよっていう歌はもう直接的な歌で、今はいろんな意見があるので、その歌詞についてもまた突っ込まれたりする可能性がありますけれども。で、吉田拓郎さんの結婚しようよをもう一度ですね、よみがえらせるというか、キャンペーンソングとしてね気運醸成を図っていききたいというふうに思っております、ちょっとそれをですね、アレンジしたものを作ってみましたのでお聞きいただきたいと思っております。

ウクレレとともにですね。とても軽快なタッチで、素敵な出来になっているかと思えます。また、これもですね、今髪が肩まで伸びてどうするんだとかですね、もう常に議論してるんですけども、もう議論ばかりやっても進みません。より社会的、また経済的課題もたくさんありますけれども、ぜひ希望する方々の出会い、そしてまた結婚や、子供が持てるという社会にしていく必要があると思っております。だからこそ、今日はですね、色々な組織の皆様方にこうやって一堂に会していただいて、みんなで知恵を出し合いながら、しっかりタンクを組んで進めていきたいと思っておりますので、今日は第一回でございましたけれども、皆さんと方向性、もちろん一緒だと思っておりますので、どうぞよろしくお願ひ申し上げます。本日のご挨拶とさせていただきます。締めくくりとさせていただきます。ありがとうございました。

3 閉会

○司会

ありがとうございます。皆様、本日はお忙しい中、ありがとうございました。以上をもちまして、結婚おうえん TOKYO ミーティングを終了いたします。

17時45分閉会